

ロシア経済の現況と見通し

田畑伸一郎

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター

ウクライナ情勢の影響に係る情報交換会

主催：北海道，経済産業省北海道経済産業局

道庁別館 HIECC特別会議室

2022年5月26日

報告の内容

1. 現況

- 現時点では、ロシア経済はそれほど大きなダメージを受けていない。制裁の影響はこれから出てくる。その程度は、西側への石油・ガス輸出がどうなるかによるところが大きい。
- 鉱工業生産： 一部の製造業に制裁の影響
- 貿易： 石油・ガスの価格高騰により、輸出が著増
- 為替レート： 暴落からの回復
- インフレ： 3月に突発的な高騰
- 財政： 石油・ガス収入の著増

2. 2022年の経済成長予測：

マイナス10%前後

3. 2023年以降の見通し：

経済構造の激変

鉱工業生産(3月の対前年同月比)

- 鉱工業生産:3.0%増

- 鉱業:7.8%増

- 生産量

- 原油=7.0%増
- 天然ガス=0.2%増
- LNG=25.3%増
- 石炭=2.9%減

- 製造業:0.3%減

- 部門別:

- 食品=1.1%増
- 石油製品・コークス=5.2%減
- 化学品=0.5%減

- 冶金=2.1%増

- 電気機械=11.0%減

- 一般機械・設備=14.4%増

- 自動車=45.5%減

- その他輸送機器=14.1%減

- 西側企業撤退の影響が出てきている(自動車, 電気機械)。
- 西側の輸出禁止(ハイテクの部品等)の影響は, 今後出てくると考えられる。
- 今年中に生産が上向く(輸入代替が進展する)ことは想定し難い。

貿易

ロシアの国際収支表

(単位 10億ドル)

	2021年1-3月	2022年1-3月	増加額	増加率(%)
経常収支	22.5	58.2	35.7	158.7
貿易・サービス収支	25.8	66.3	40.5	157.0
輸出	104.8	156.7	51.9	49.5
輸入	79.0	90.4	11.4	14.4
第1次・第2次所得収支	-3.3	-8.1	-4.8	145.5
受取	16.6	22.5	5.9	35.5
支払	19.8	30.6	10.8	54.5
資本収支	0.2	0.0	-0.2	
金融収支	22.7	58.0	35.3	155.5
誤差脱漏	0.0	-0.3	-0.3	

(出所)中央銀行ウェブサイトから作成。

- 輸出の著増:原油・ガス価格高騰による。
- それによる貿易収支・経常収支の増加。
- 経常黒字は、四半期としては過去最大。
- この傾向の継続は、石油・ガスの輸出次第。

為替レート

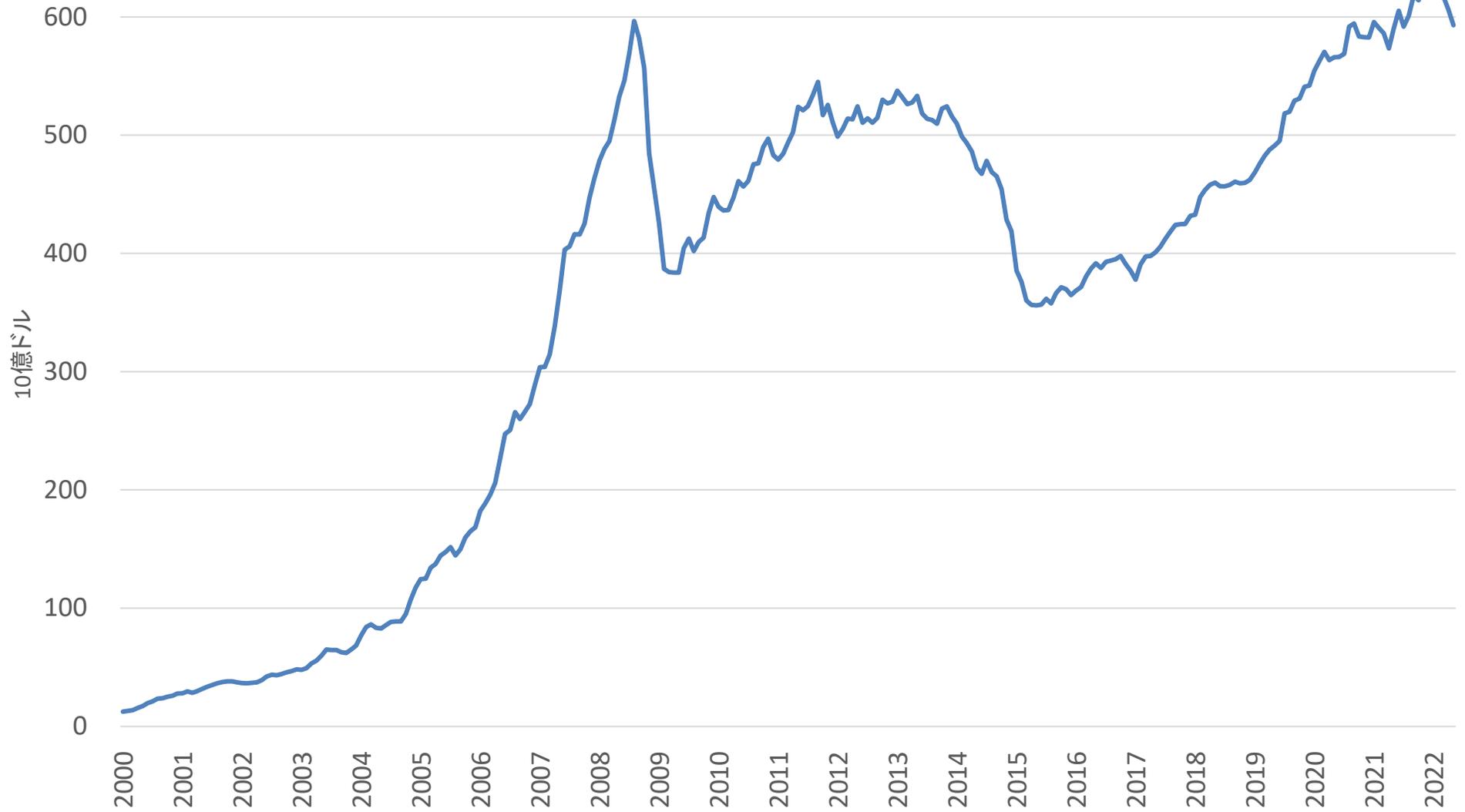
ルーブル対ドル公定レートの変遷



- 2月末の暴落からの回復要因
 - 輸出獲得外貨の80%売却義務
 - 石油・ガスの輸出、価格高騰
- 世界第4位の外貨準備があるので、ルーブルの暴落は想定できない。

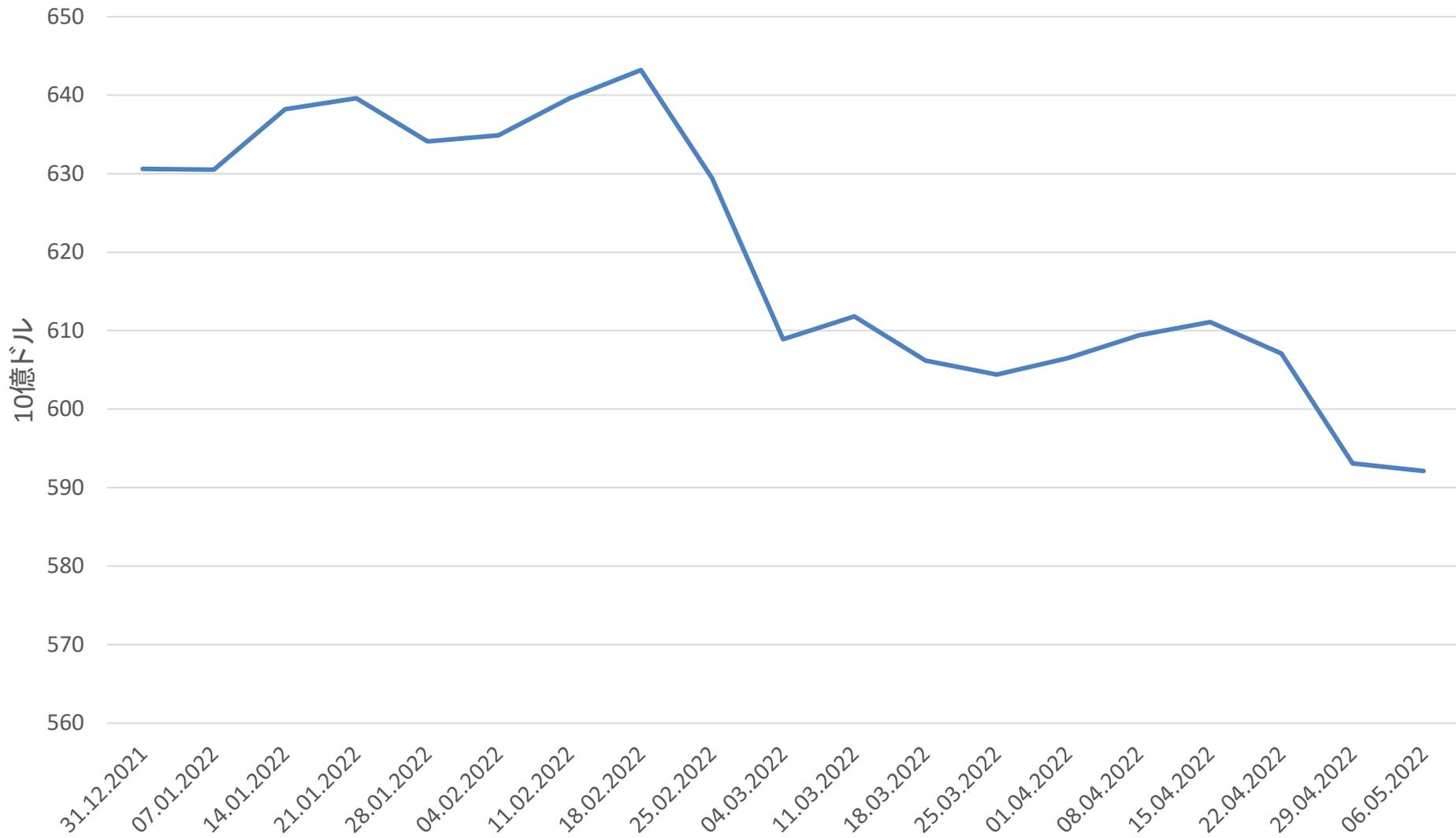
(出所)ロシア中央銀行ウェブサイトから作成。

ロシアの外貨準備の推移



(出所)ロシア中央銀行のウェブサイトから作成。

ロシアの外貨準備の推移(2022年)

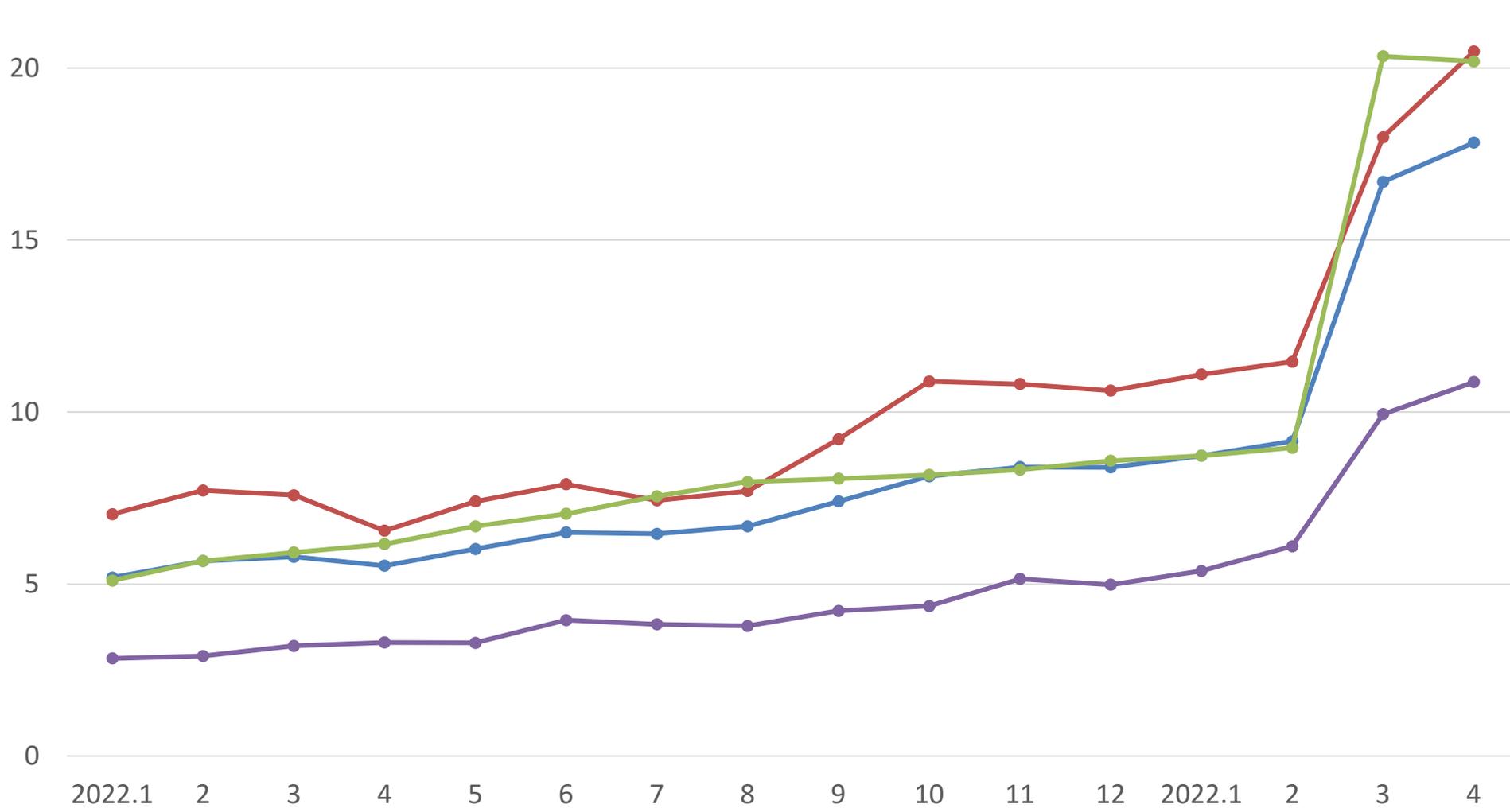


(出所)ロシア中央銀行のウェブサイトから作成。

- 2月18日から5月6日までの511億ドルの減少: 用途は不明, 統計の発表がない。
- 中銀の為替市場への直接介入は12億ドル(2月25日と28日)。

インフレ

インフレの推移(対前年同月比 %)

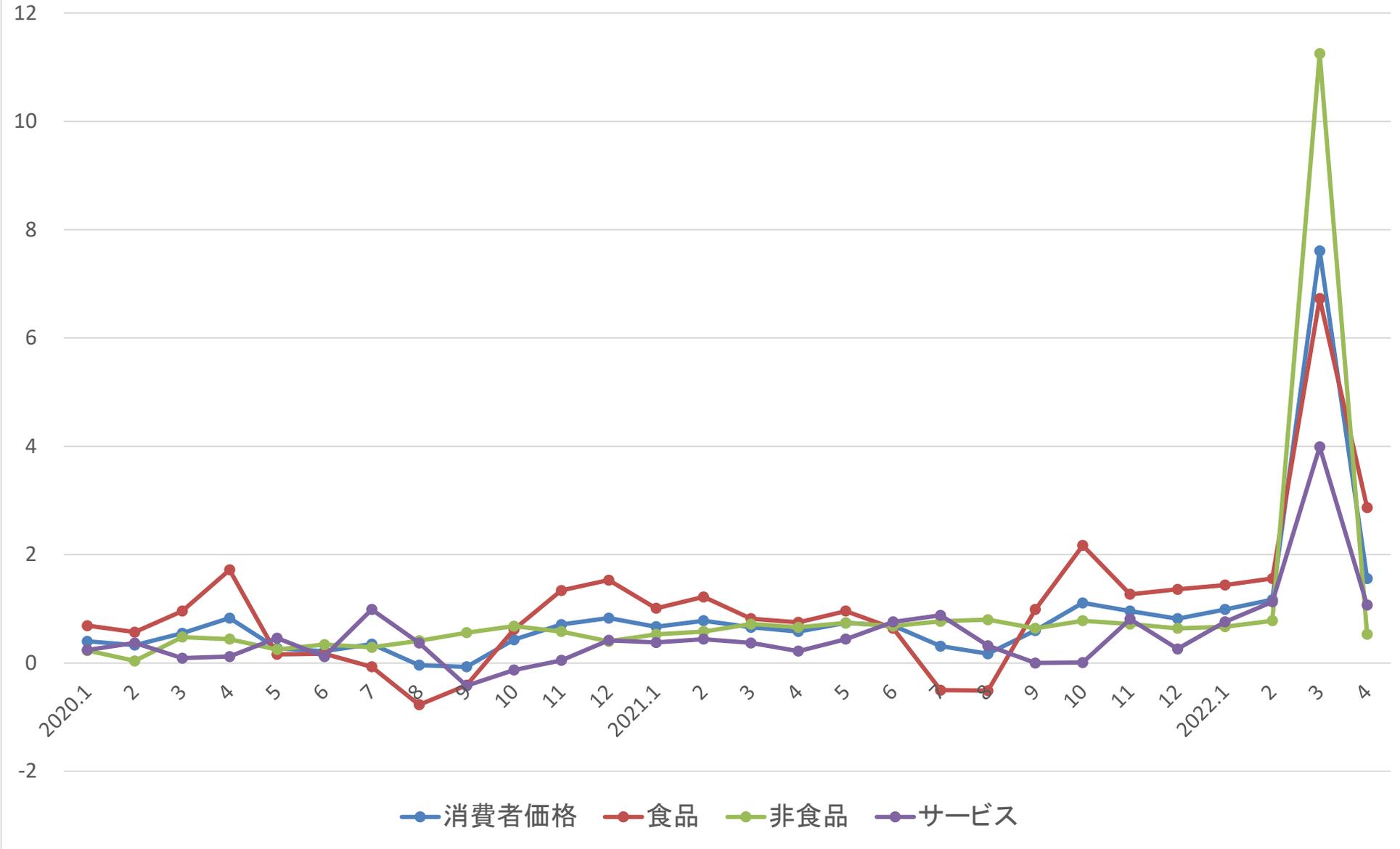


(出所)ロシア中央銀行資料から作成。

—●— 消費者価格(CPI) —●— 食品 —●— 非食品 —●— サービス

CPI
3月 : 16.7%
4月 : 17.8%

インフレの推移(対前月比 %)



- 2022年3月
 - パニック買い (特に非食品)
 - ルーブル安
- 今後そのような上昇がないとしても年間のインフレ率は18%程度になる。
- 中銀の予測: 18-23%

財政

ロシアの連邦財政

(単位 10億ルーブル)

	2021年1-3月		2022年1-3月			
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	増加額	増加率(%)
歳入総額	5,299.9	100.0	7,169.5	100.0	1,869.6	35.3
法人税	275.2	5.2	461.2	6.4	186.0	67.6
付加価値税	2,204.9	41.6	2,693.3	37.6	488.4	22.2
物品税	139.4	2.6	▲ 348.2	▲ 4.9	▲ 487.6	▲ 349.8
自然資源利用税・納付金等	1,383.3	26.1	2,887.3	40.3	1,504.0	108.7
対外経済活動収入	570.5	10.8	1,064.3	14.8	493.8	86.6
公有資産収入	48.3	0.9	59.3	0.8	11.0	22.8
その他(計算値)	678.3	12.8	352.3	4.9	▲ 326.0	▲ 48.1
歳出総額	5,013.3	100.0	6,029.0	100.0	1,015.7	20.3
国家的事業	354.6	7.1	438.0	7.3	83.4	23.5
国防	903.6	18.0	1,054.0	17.5	150.4	16.6
安全保障・治安	467.3	9.3	501.6	8.3	34.3	7.3
国民経済	409.7	8.2	532.1	8.8	122.4	29.9
燃料・エネルギー	2.4	0.0	0.5	0.0	▲ 1.9	▲ 79.2
農業・水産業	31.7	0.6	64.0	1.1	32.3	101.9
輸送	39.8	0.8	56.7	0.9	16.9	42.5
道路	113.1	2.3	155.8	2.6	42.7	37.8
通信・情報	9.9	0.2	17.4	0.3	7.5	75.8
応用科学研究	61.9	1.2	59.9	1.0	▲ 2.0	▲ 3.2
その他(計算値)	150.9	3.0	177.8	2.9	26.9	17.8
住宅・公営事業	183.9	3.7	223.2	3.7	39.3	21.4
社会・文化措置	2,131.6	42.5	2,556.8	42.4	425.2	19.9
教育	234.9	4.7	286.7	4.8	51.8	22.1
文化・マスコミ	35.8	0.7	61.3	1.0	25.5	71.2
保健・スポーツ	246.6	4.9	489.7	8.1	243.1	98.6
社会政策	1,614.3	32.2	1,719.1	28.5	104.8	6.5
国家・地方自治体債務利払	238.5	4.8	348.8	5.8	110.3	46.2
地域財政への移転	222.1	4.4	234.7	3.9	12.6	5.7
その他(計算値)	102.0	2.0	139.8	2.3	37.8	37.1
財政黒字	286.6	...	1,140.5	...	853.9	297.9

(出所)連邦出納局ウェブサイトから作成。

- 1-3月実績
 - 歳入の著しい増加
 - 石油・ガス価格高騰による石油・ガス収入の増加
 - 財政黒字の増加
 - 歳入の増加が歳出の増加を上回っている。
 - 国防費の増加はそれほど大きくない。
 - インフレを考慮すると、実質での増加はそれほど大きくない。
- 2022年予測
 - 5月以降、石油・ガス収入が対前年比3分の2になると、財政赤字は対GDP比2%、対前年比3分の1になると、赤字は同4% (4月以降、石油・ガス外収入は10%減少(GDPも10%減少)、歳出は5%増加を想定)。
 - 国民福祉基金(政府系ファンド)があるので、対GDP比5%程度の赤字が2年続いても耐えられる。

ロシアの石油・ガス収入

	2021					2022									
	10億ルーブル					10億ルーブル					対前年同期比増加率(%)				
	1月	2月	3月	4月	1-4月	1月	2月	3月	4月	1-4月	1月	2月	3月	4月	1-4月
総額	490.8	544.9	582.5	889.8	2,508.0	794.5	971.7	1,208.1	1,797.7	4,772.0	61.9	78.3	107.4	102.0	90.3
採掘税	382.0	454.5	470.6	557.5	1,864.6	717.2	927.5	953.1	1,269.6	3,867.4	87.7	104.1	102.5	127.7	107.4
原油	324.2	391.4	409.3	487.9	1,612.8	634.6	829.8	858.0	1,152.5	3,474.9	95.7	112.0	109.6	136.2	115.5
天然ガス	44.0	46.1	44.3	49.7	184.1	58.3	64.8	60.5	70.5	254.1	32.5	40.6	36.6	41.9	38.0
ガスコンデンサート	13.8	17.0	16.9	19.9	67.6	24.3	32.9	34.6	46.6	138.4	76.1	93.5	104.7	134.2	104.7
輸出関税	118.8	122.1	132.4	146.6	519.9	223.2	272.0	306.5	348.2	1,149.9	87.9	122.8	131.5	137.5	121.2
原油	35.5	33.2	47.3	57.3	173.3	52.8	37.4	88.1	84.7	263.0	48.7	12.7	86.3	47.8	51.8
天然ガス	66.7	68.4	54.3	53.9	243.3	142.6	209.9	171.5	234.3	758.3	113.8	206.9	215.8	334.7	211.7
石油製品	16.7	20.6	30.8	35.3	103.4	27.8	24.8	46.9	29.2	128.7	66.5	20.4	52.3	-17.3	24.5
炭化水素原料採掘追加所得税	-22.6	-34.4	-46.9	-42.1	-146.0	-54.6	-100.0	-112.1	-119.8	-386.5	141.6	190.7	139.0	184.6	164.7
石油原料物品税	0.0	-0.2	43.1	267.7	310.6	0.4	-2.4	225.9	765.9	989.8	424.1	186.1	218.7

(出所)ロシア財務省ウェブサイトから作成。

2. 2022年の経済成長予測

• 各機関の予測

- ロシア中央銀行: 8-10%減
- ロシア経済発展省: 8.8-12.4%減
- IMF: 8.5%減
- 世界銀行: 11.2%減

• GDP予測値(10%減)の内訳

- 家計消費: 10%減
 - 20%のインフレ下で, 名目所得が10%増となっても, 実質所得は10%減となる。
- 政府消費: 5%増
 - 戦費, 経済対策費などによる増加
- 投資: 20%減
- 在庫品増加: 前年水準
- 輸出: 20%減
 - 金額ではなく, 実質(数量)。
- 輸入: 20%減

3. 2023年以降の見通し(1)

- ロシア経済の世界経済からの切り離し
 - 貿易相手国の大きな変化: 西側の比重がゼロに近づく。中国の比重が増大する。
 - 外国直接投資の激減: 技術移転の激減
- 輸入代替の進展
 - 外国直接投資がないなかでの輸入代替: 質の劣化は避けられない。
- 石油・ガス輸出
 - 西側の石油・ガスの脱ロシアは行きつくところまで行く。
 - 2022年中は無理であろうが、戦争が長期化する場合、2024年頃までにそうなる可能性が十分にある。
 - 世界的な脱炭素は脱ロシアにより早まる。
 - 西側がロシアからの輸入の完全な代替先を見出すのは難しい。
 - ロシアが西側に代わる代替的な輸出先を短期間で見出すのは難しい。

3. 2023年以降の見通し(2)

- ロシア経済はこれまでのような石油・ガス依存を続けられない。
 - 経済構造の変化
 - 輸入代替, 自給型経済へのシフト。
 - 農業の重要性が高まる。穀物などの輸出(中東, アフリカ向け)が増える？
 - 貿易構造の変化
 - 輸出の縮小: 西側のロシアからの石油・ガス輸入がゼロになると, 石油・ガス輸出は現在の3割の水準に下がる。これだけで, ロシアの輸出総額は2021年と比べて65%の水準に下がる。
 - 貿易収支や経常収支の黒字が減る。
 - 輸入(消費財)も減る。
 - 財政歳入構造の変化
 - 国家財政歳入の減少: 西側のロシアからの石油・ガス輸入がゼロになると, 石油・ガス収入の減少だけで, 連邦予算の歳入は2021年と比べて72%の水準に下がる。
 - 付加価値税, 法人税などの比重が高まる。

参考文献

- 加藤学「ロシア向け経済制裁の動向」『ロシアNIS調査月報』5月号（第67巻第5号），pp. 41-58, 2022.
- 田畑伸一郎「ロシアの経済・財政状況：2021年の回復と迫る暗雲」『ロシアNIS調査月報』5月号（第67巻第5号），pp. 2-25, 2022.
- ———「制裁のロシア経済への影響」2022年3月9日，SRC緊急セミナー「経済制裁とロシア：緊迫するウクライナ情勢」2022年3月4日 [https://src-h.slav.hokudai.ac.jp/center/essay/20220302_j]。

参考：今後のシナリオについての私論

1. 西側の石油・ガス輸入禁止措置が確実に実施されるか、中国がどの程度ロシア支援に動くかなど不確定要因が多いが、ロシア経済は2～3年くらいでかなり困難な状況になり、2～3年以内に停戦となる可能性は十分にあるのではないか。それにも関連して、その間にプーチン退陣となる可能性も十分にあると思われる。
2. 停戦までの間はロシア経済の世界経済からの切り離しが続く。
3. 停戦となっても、ウクライナとの和解（分断化の固定とかウクライナの「勝利」を含む）が達成されるまで、西側はロシアの世界経済への復帰を認めないであろう。
4. プーチン退陣、停戦、ウクライナとの和解（賠償を含む）が最善のシナリオであるが、その早期の可能性がどれだけあるか分からない。この最善のシナリオの場合、ロシアの国際経済関係は徐々に元の状態に戻るが、完全に戻ることはない。ロシアへの信頼が失われたこと、また、脱ロシア（脱炭素）が、不可逆的なところまで進展してしまうことによる。